

機能確認書

- 記載方法
- 1 有無欄には、次の内容に従い○、●、△、×を記載すること
    - : 機能がある
    - : 類似機能、代替機能がある
    - △ : 機能はないが、本業務内で対応可能
    - × : 機能はなく、本業務内では対応不可
  - 2 有無欄に●を記載した場合、類似・代替機能の概要を概要欄に記載すること。
  - 3 備考欄に◎が記載された機能は、必須とする。
  - 4 記載された機能以外に有する標準機能がある場合は、「上記以外の標準機能」下段の機能要件概要欄に機能の概要を記載すること。

(1) 施設・設備情報管理機能				
番号	機能概要	有無	概要	備考
①	上水道・下水道事業区分—工種ごとに情報を登録・管理することができる。工種は土木・建築・建築機械・建築電気・プラント機械設備・プラント電気設備ごとに管理することができる。			◎
②	土木、建築（付帯設備含む）、機械、電気について、設置目的、設置場所、稼動状態、耐用年数、償却方法等の資産情報のほか、それぞれの設備に必要な仕様情報、補機付属品情報、部品情報を登録・管理することができる。			◎
③	工種ごとに主機、原動機等の管理項目が自由に追加・変更・削除することができる。			◎
④	設備分類や設置場所による階層管理機能を有し、ユーザーが検索しやすい方式で切り替えて表示することができる。			◎
⑤	施設・設備管理に必要な図面、書類、写真等のデータを施設・設備情報とリンクして登録・管理することができる。			◎
⑥	国土交通省が定めた標準耐用年数及び地方公営企業法、大蔵省令、適化法4つの耐用年数及び目標耐用年数を登録・管理することができる。			
⑦	設備の稼動状態（稼動中、休止、廃止等）を登録・管理することができる。			
⑧	施設・設備情報の登録は、他の設備の詳細情報をコピーして登録することができる。			
⑨	施設・設備情報を先に登録し、後から工事と連動することができる。			
⑩	施設・設備情報から保守・修繕や故障情報等を表示・編集することができる。			
⑪	更新施設・設備に対しては、世代を管理できるとともに、前の世代の情報も表示できる。			
⑫	機能増設された設備については、その資産価値及び耐用年数を自動的に再計算することができる。			
上記以外の標準機能				
		—		
		—		
		—		
(2) 資産情報管理機能				
番号	機能概要	有無	概要	備考
①	工事契約情報から設備明細情報（資産情報）まで管理するとともに、各設備の取得価格及びその内の補助金対象等に関する情報を登録・管理することができる。			◎
②	建設工事取得した資産の種別（新設、更新、機能増設、撤去等）を登録・管理することができる。			◎
③	年度—工事名等による階層管理機能を有し、ユーザーが検索しやすい方式で切り替えて表示することができる。			◎
④	資産管理に必要な図面、書類、写真等のデータを資産情報とリンクして登録・管理することができる。			◎
⑤	事業種別や補単区分ごとに情報管理ができる。			
⑥	Excel形式又はCSV形式のデータを取り込むことにより、データを登録することができる。			
⑦	施設・設備情報等システムで管理している台帳データと関連付けして登録することができる。			
⑧	複数工種（機械、電気設備等）を1工事で実施している情報についても、1工事としての工事管理だけでなく、工種ごとの工事管理ができる。また、複数の工種・補助率が含まれる工事でも設備ごとに適正な補助金額を計算することができる。（補助率は工事ごとに変更可能）			
上記以外の標準機能				
		—		
		—		
		—		

(3) 関連図書・情報管理機能

番号	機能概要	有無	概要	備考
①	竣工図や完成図書、関連図書、事業計画及び関連情報を管理する機能を有する。			◎
②	浄水場や処理場場内の設備情報として関連する基礎情報、図面、完成図書等のデータを閲覧できる機能を有する。また、施設・設備情報等システムで管理している台帳データと関連付けして登録できる。			◎
③	地震対策等関連計画の事業計画情報を登録・管理することができる。			
④	地震対策等関連計画情報等を施設・設備の属性情報として登録・管理することができる。			
⑤	図書データに設定されたキーワード等により検索・参照が可能である。			
上記以外の標準機能				
		—		
		—		
		—		

(4) 保守・修繕履歴情報管理機能

番号	機能概要	有無	概要	備考
①	修繕工事の概要・契約情報から内訳・明細情報を管理するとともに、設備別の修繕履歴情報も管理する機能を有する。			◎
②	設備別修繕履歴管理機能からの情報登録も可能である。			◎
③	修繕工事情報は、年度－工事名等の階層管理機能を有し、情報を表示することができる。			◎
④	設備分類や設置場所による階層管理機能を有し、ユーザーが検索しやすい方式で切り替えて表示することができる。			◎
⑤	保守・修繕管理に必要な図面、書類、写真等のデータを保守・修繕情報とリンクして登録・管理することができる。			◎
上記以外の標準機能				
		—		
		—		
		—		

(5) 故障履歴情報管理機能

番号	機能概要	有無	概要	備考
①	設備別・故障別に異常内容、措置内容、部品交換及び消耗品の交換・補充情報を管理する機能を有する。また任意条件による故障分析できる機能を有する。			◎
②	設備分類や設置場所による階層管理機能を有し、ユーザーが検索しやすい方式で切り替えて表示することができる。			◎
③	故障管理に必要な図面、書類、写真等のデータを故障情報とリンクして登録・管理することができる。			◎
④	異常内容を登録すると“故障申請書”を印刷することができる。			
⑤	措置内容を登録すると、その故障情報が措置完了と管理されるとともに“故障報告書”を印刷することができる。			
⑥	措置内容が登録されないとシステム上、その故障は未完扱いとする。			
⑦	施設、設備分類単位から設備単品まで任意の条件設定により、故障等の発生頻度や要因等の情報の集計と故障分析を行うことができる。分析グラフについては、図としてファイル出力できる。			
上記以外の標準機能				
		—		
		—		
		—		

(6) 運転情報管理機能

番号	機能概要	有無	概要	備考
①	施設ごとに測定場所や運転時間等測定項目を任意に追加し、登録・編集することができる。			◎
②	施設－測定場所－測定項目ごとに上限・下限値を設定することができる。また、日報から月報への反映の有無を選択できるとともに、反映内容についても“合計値”、“平均値”、“最大値”、“最小値”等から複数選択できる。			
③	Excel形式又はCSV形式のデータを取り込むことにより、運転情報を登録することができる。			
④	測定項目ごとに傾向管理（グラフ表示）や累積時間集計ができる。			
上記以外の標準機能				
		—		
		—		
		—		

## (7) 点検情報管理機能

番号	機能概要	有無	概要	備考
①	各機器の保守・点検項目管理、及び日常・定期点検のスケジュール管理ができる機能を有する。また、発注者にて追加・修正が容易に行える機能を有する。			◎
②	点検基準等をタブレット端末機にダウンロードし、点検情報の収集ができるとともに、その収集データをデータベースにアップロードし、点検結果を登録できる。			◎
③	登録された点検周期をもとに、作業計画を作成するとともに、作業進捗や実績データを管理することができる。また、点検の実施状態や計画を一覧形式で表示することができる。			◎
④	判定基準において、定性評価の点検項目は、“正常”、“異常”、“清掃”、“調整”、“交換”等から選択でき、定量評価の点検項目は、定格値、危険の上限・下限値、注意の上限・下限値等を設定することができる。			
⑤	点検ルートごとに設備をグループ化することができる。			
⑥	定量評価の点検項目については、相対比較、相互比較ができる。			
⑦	点検結果のトレンド表示と傾向分析ができる。			

上記以外の標準機能

		—		
		—		
		—		

## (8) 業務継続マネジメント機能

番号	機能概要	有無	概要	備考
①	検索機能として、「場所」、「もの」から施設・設備情報、点検情報、故障履歴情報等の検索ができる。			◎
②	「場所」からの検索については、施設平面図の機器・配管等から当該データの検索ができる。			◎
③	「もの」からの検索については、タブレット端末機と連動して、機器に付与したタグナンバーから、情報の収集ができる。情報の収集とは、機器情報のみでなく、「事象」検索ともリンクして関連情報を検索できる。			◎
④	「事象」からの検索については、発生事象のキーワード検索ができるとともに、情報の収集ができる。また、「事象」検索機能と「業務継続の対応フロー」がリンクしてある。			◎
⑤	災害や事故が発生したときに、その事象に関する業務マニュアル、関連図書・図面、発生対応記録をアウトプットできる。			

上記以外の標準機能

		—		
		—		
		—		

## (9) 目標・リスク情報管理機能 (ストックマネジメント支援機能)

番号	機能概要	有無	概要	備考
①	施設・設備ごとに影響度、発生確率等を登録・管理することができる。また、登録された影響度と発生確率の情報からリスクの大きさを計算することができる。			◎
②	発生確率は、目標耐用年数、標準耐用年数、健全度予測式から選択することができる。			
③	健全度予測式は、一次式、二次式、三次式及び指数関数から選択でき、任意に変更できる。			

上記以外の標準機能

		—		
		—		
		—		

## (10) 調査情報管理機能 (ストックマネジメント支援機能)

番号	機能概要	有無	概要	備考
①	調査情報として、調査項目や調査基準、調査頻度等を登録・管理することができる。また、設備ごとに任意に部品及び調査項目を設定することができる。			◎
②	設備ごとに調査表を出力することができる。			◎
③	調査基準等をタブレット端末機にダウンロードし、調査情報の収集ができるとともに、その収集データをデータベースにアップロードし、調査結果を登録できる。			◎
④	調査結果より設備の健全度を算出できるとともに、算出結果を基に改築対象設備を抽出・管理することができる。			◎
⑤	調査ルートごとに設備をグループ化することができる。			◎
⑥	登録された調査予定をもとに、作業計画を作成するとともに、作業進捗や実績データを管理することができる。また、調査の実施状態や計画を一覧形式で表示することができる。			◎
⑦	調査ルートごとに設備をグループ化することができる。			
⑧	健全度予測は、部品単位及び設備で蓄積データによる近似式で行うことができる。			
⑨	健全度予測結果に基づき、設定期間での改築対象施設を抽出することができる。また、予測結果を一覧表やグラフで表示することができる。			
上記以外の標準機能				
		—		
		—		
		—		

## (11) 検索機能

番号	機能概要	有無	概要	備考
①	任意条件検索だけでなく、設置場所、耐用年数、工事年度、施工・製造業者、修繕履歴等情報項目を検索条件として設定し検索することができる。			◎
②	任意条件検索では、“AND”，“OR”で複数の条件を設定し、絞り込んで検索することができる。			
③	検索結果一覧から、工事、設備、修繕情報等詳細情報を表示するだけでなく、内容の修正を行うこともできる。			
④	検索結果一覧は、Excel形式及びCSV形式ファイルとして出力することができる。			
上記以外の標準機能				
		—		
		—		
		—		

## (12) 帳票出力機能

番号	機能概要	有無	概要	備考
①	設備、工事、保守・修繕及び故障等に関する情報を帳票出力及び外部ファイルとして出力することができる。また、故障対応履歴、点検等のレポートを個別に出力することができる。			◎
②	帳票は、Excel形式及びPDF形式ファイルとして出力することができる。			
③	一覧表示されるデータは、Excel形式及びCSV形式ファイルとして出力することができる。			
上記以外の標準機能				
		—		
		—		
		—		

## (13) データ登録機能

番号	機能概要	有無	概要	備考
①	専用フォーマット(エクセルデータ)により、直接、機器台帳システムに機器諸元データを一括登録することができる機能を有する。また、委託者にてデータ登録・追加・修正が容易に行える機能を有する。			◎
上記以外の標準機能				
		—		
		—		
		—		